

目次

85	巻頭言	竹下 景子
86	連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第9回	ブータンに幸せのルーツを求めて…山極 壽一
88	連載「氷河から熱帯雨林まで」第8回	氷河に住む微生物はすごい！…幸島 司郎
90	連載「生態学者が往く」第5回	スリランカ・ホートン高原の旅…湯本 貴和
92	連載「自然と芸術」第9回	ヒト以外のヒト科の絵画展…齋藤 亜矢
94	連載「大型類人猿探訪」第12回	チンパンジーの喜怒哀楽…林 美里
96	連載「サルに住む森」第12回	先端技術がときあかす複胃の微生物…松田 一希
98	連載「ウマ学ことはじめ」第12回	野生ウマの死とオオカミ…レナータ メンドンサ リングホーファー 萌奈美
100	連載「海外生息地調査」第12回	エチオピアの高地にくらすゲラダヒヒ…赤見 理恵
102	連載「環境教育実践」第12回	『霊長類図鑑 サルを知るとはヒトを知ること』制作記…高野 智
104	連載「動物園・水族館だより」第3回	スローロリス保全センターのできるまで…山梨 裕美 根本 慧
106	特別寄稿 焚火と猿と俳句と	尾池 和夫
108	神の鳥、ライチョウの不思議	牛田 一成
110	コアラはフクログマ？ フクロザル？ ～オーストラリアの有袋類の多様性～	早川 卓志
112	ご寄附のお願い・イベントのご案内	

■表紙の言葉

ブータン王国の第4代国王にお会いした。ジグミ・シンギ・ワンチュク殿下である。ブータンと京都大学のご縁は1957年秋にさかのぼる。殿下のおかあさまにあたる第3代王妃がおしのびで京都を訪れた。当時まだ国交がなく、京都大学の故桑原武夫教授らが応接した。2017年秋、交流60周年を記念して殿下の名代として娘のソナム・デチェン王女が来日された。2018年秋、答礼で山極壽一総長（日本モンキーセンター博物館長）の一行が訪れた。殿下は、GNH（国民総幸福量）の提唱者として知られる。ブータン国憲法第9条は、政府はGNHの推進のためにあると規定している。会談の冒頭に、山極＝ゴリラと、松沢＝チンパンジーに言及して、ブータンにもエイブ（類人猿）がいるとおっしゃった。スノーマン（雪男）のことで、実際ブータン・ヒマラヤにいます。そう。（写真はブータン王室提供）



松沢 哲郎 まつざわ てつろう

京都大学高等研究院・特別教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のコーディネーター。公益財団法人日本モンキーセンター・所長。中部大学創発学術院・特別招聘教授。京都造形芸術大学文明哲学研究所・所長。中部学院大学客員教授。

巻頭言

竹下 景子

拝啓 アイとアユムさま

お久しぶりです。最後にアイと会ったのが2014年ですからそろそろ5年ですか。でも、最近の様子はYouTubeで見ましたよ。回答の俊敏さと正解率の高さは出題者を「瞬殺」でした。見ていてスカッとなりました。今も変わらず、元気で勉強に励んでいることでしょう。

そう、私が初めて見たチンパンジーの記憶はテレビでした。コマーシャル。小学一年生くらいだったかな。大のテレビっ子で、中でも「ディズニーランド」（正確には「三菱・ダイヤモンドアワー」といってプロレス中継と交互に放送されていた）と「ポパイ」（提供はペコちゃんの不二家）と「ララミー牧場」が大好きでした。「ララミー牧場」は、番組の最後に淀川長治さんのミニ解説があり、いつも決まって「さよなら、さよなら、さよなら」で締めくくられ、その後にチンパンジー主演のバヤリース・オレンジのCMが流れていました。いろんな扮装をして登場するその子たちがとても芸達者だったので、チンパンジーは頭が良くて人懐っこく愛らしい動物という印象が長くありました。今思うと、ずいぶんと人間本位な見方で当の幼いチンパンジーたちに申し訳なく思います。人間の私だって、いつもと違う格好をさせられて長い時間カメラの前であせいこせいと言われ続けたらストレスになること間違いなしですから。

そのことに気づいたのは、大人になってからです。チンパンジーが大型類人猿の中のひとつで、「お猿ではない」と教わったのは、さらにその後、松沢哲郎先生によってでした。

2014年にあなたたちを訪問した時に、アイが目の前の画面を一瞬で記憶して、しかもその数字を難なく小さい順に示していくのに、仰天しました。人間は誰一人かなわないでしょう。だってホント、笑っちゃうほど速いんだもの。松沢先生は森の中で生き抜くために必要な能力と仰るけれど、では私たちヒトは、言葉と引き換えにどれほどの能力を忘れ去ってしまったのだろう。人間よりもアイたちチンパンジーの方がずっとエライように思えてきた。

46億年の地球の歴史の中で、生き物は何回も気候変動を乗り越えて生命のバトンをつないできました。奇跡のプロセスを経て今の多様な生態系があります。全てがつながって支え合っている生命のタペストリー。アイやアユムは、共通の祖先を持つ私たちがその生態系のタペストリーの一員だと教えてくれる。ありがとうアイ、そしてアユム。

今度あなたたちに会えるのはいつでしょう。その日を愉しみにしています。 敬具



竹下 景子
たけした けいこ

俳優。愛知県出身。1973年NHK銀河テレビ小説『波の塔』でデビュー。映画「男はつらいよ」ではマドンナ役で3作品に出演。テレビ・映画・舞台への出演のほか、国連WFP協会親善大使、京都国立博物館文化大使など幅広く活動。新たに2019年3月3日より、公益財団法人日本モンキーセンター親善大使を務める。2005年と2014年に京都大学霊長類研究所のアイとアユムを訪ねる。